

## NEWS RELEASE

**UPLC を用いたかつお節由来機能性ペプチドの測定方法の確立**

-かつお節由来ペプチドの機能性関与成分としての妥当性-

ヤマキ株式会社(本社:愛媛県伊予市 代表取締役社長:城戸善浩)は、2023年1月21日(土)に開催された日本農芸化学会中四国支部第64回講演会(例会)(岡山県立大学)において、下記の通り研究発表をいたしました

**■研究発表概要**

演題名:UPLC を用いたかつお節由来機能性ペプチドの測定方法の確立

学会・発表会場:日本農芸化学会中四国支部第64回講演会(例会)(岡山県立大学)

発表者:関英治(ヤマキ株式会社 商品開発部 かつお節・だし研究所)

発表日:2023年1月21日(土)

**■研究内容の要約**

【目的】これまでの研究でかつお節由来機能性ペプチドおよび鰹だしには DPPIV 阻害作用が見出されており、食後血糖値上昇抑制効果があることも明らかにしている。本研究において鰹だし中に含まれる主な機能性ペプチドの含有量と DPPIV 阻害活性値から関与成分としての妥当性を検討した。

【方法・結果】機能性ペプチド 18 種類を、カートリッジ(Sep-Pak C18)の前処理後、UPLC を用いて単離・同定した。その結果、主要なジペプチドは Trp-Val、Ala-Trp であった。Trp-Val の DPPIV 阻害活性値と含有量は 37.0  $\mu$ M(IC50 値)と 15.24 mg/100g であった。また Ala-Trp の DPPIV 阻害活性値は 312  $\mu$ M(IC50 値)でその含有量は 70.1 mg/100g であった。

【考察】カートリッジ(Sep-Pak C18)の前処理から分取なしで目的の機能性ペプチドが1回のUPLCクロマトグラフィーによる分析によって簡易に測定できた。また Trp-Val および Ala-Trp の定量及び活性測定から、これらの機能性ペプチドは DPPIV 活性阻害の関与成分として妥当であることが示唆された。